

第19号

蔵工同窓会報



東京都立蔵前工業高等学校
同窓会
台東区蔵前 1-3-57
TEL (03) 3862-4488
ホームページアドレス
<http://kurakou.omiki.com/>
「蔵工同窓会」で検索
Eメールはホームページより
ご利用ください



100年に一度の チャンス

同窓会会長 尾島 正樹

私は2021年度同窓会常任委員会で同窓会会長として信任を受けました。昭和43年設備工業科卒の尾島正樹でございます。

2021年度の幕開けですが、新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっております。

昨年を振り返ってみますと、母校においては卒業式や入学式の縮小に始まり、変則的な対面授業へと変わり、一時期校内から学生の姿が消えていました。その後、少しずつ落ち着きを取り戻してきておりますが、学外者の学内施設の利用制限は続いておりますので、学校内での同窓会活動が全くできない状況にあります。このため、常任委員会は書面審議とし、令和3年度の同窓会総会・懇親会は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、やむを得ず中止といたしました。2年に一度の同窓生の集いを心待ちにされていた皆さまには大変申し訳ございませんが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

人類は100年前にもインフルエンザのパンデミックを経験しています。この大流行はインフルエンザとしては史上最大のものとなりました。1918年3月頃から1920年まで全世界で大流行したスペイン風邪です。我が国でも、日本全土に拡散し、死亡者は25万人以上であったと言われています。

さらに数年後、1923年9月1日のお昼頃、関

東大震災が発生し、東京の下町一帯は大被害を受けました。その復興は急務で、大正13年(1924)5月22日、必要な技術者の養成を目的に、東京市立浅草工業専修学校を設立したのが、蔵前工業高等学校の前身でした。

まもなく蔵工創立100周年となりますが、思えば、蔵工は100年前の大震災復興の混乱つづく戦中戦後の危機的な状況を幾度も乗り越えてきました。我が国の、将来の工業立国の、計画のもとに、母校工業学校の開設に努力した先覚者に、私達は衷心より敬意を表したいと思います。

さて、同窓会の運営諸活動は友情の絆を大切に交流親睦を図ることを基本に、常に対面集合、交流の形を取って進めて来ましたが、今回のコロナ禍では、人を避ける非接触と言う新状態での選択が求められました。今後はデジタル革命の浸透やIT化の流れを伴って、新しい会の運営、活動の在り方の再構築が必要と考えられています。逆境を逆手に、100年に1度のチャンスとして、本会のさらなる発展向上を模索すべき時代となるでしょう。

これからも同窓会運営に皆様の益々の力強いご指導ご協力を、よろしくお願い致します。

100
蔵工創立100周年

蔵工と同窓会が紡ぐ 100年のあゆみ

1935

1924

1947-1954
初代会長
土屋 茂助



1954-1973
二代目会長
池田 武雄



1974-1988
三代目会長
菊田 正唯



1988-1996
四代目会長
横山 平司



1996-1999
五代目会長
水越 富哉



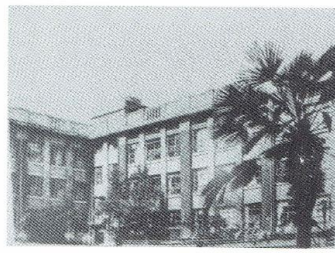
2000-2004
七代目会長
能田 舜二



2005-2011
八代目会長
深尾 秀次



2011-2017
九代目会長
松野 義勝



東京市浅草区馬道 富士小学校内で授業を開始

大震災直後東京市復興のために、大正13年乙種の工業の専修学校として新設されたのが浅草工業専修学校でありました。当時としては立派な赤煉瓦造の富士尋常小学校の校舎を、浅草青年訓練所と夜間併用し、生徒は機械科と電気科でした。大正15年からは本科生に軍事教練も課せられた。

浅草専修学校



浅草区蔵前1丁目12番地 蔵前高等学校校内に移転

蔵前工業学校

大正13年5月22日
東京市立浅草工業専修学校設立認可
大正13年8月1日
校長村秀治就任
大正13年9月11日
富士小学校講内にて授業開始
大正15年7月1日
青年訓練所認定を受ける
昭和10年9月30日
北条三郎本校長に就任
昭和13年3月20日
蔵前高等学校校内に移転
昭和18年7月1日
東京都立蔵前工業学校改称
昭和20年3月9日
戦災で新築中の校舎消失

昭和10年に甲種に昇格。蔵前の地に蔵前高等小学校が新築するので同居することになり、名称も蔵前工業学校と改称されました。その際に独立の実習場も新設されました。戦争中に拘らず隣接地に敷地を買い入れ、独立校舎建築を昭和20年には着手していたが、3月の大空襲で全壊、蔵前高等小学校も大半焼失しました

1951

1945

戦後の混乱期にも同窓会総会

同窓会誕生



浅草区向柳原2丁目1番地 柳北国民学校で再開

同窓会の誕生は実質的には三代目の校長伏見先生の時代で、終戦後の混乱期でした。

電気科廃止を救う

初代会長として機械科第一回蔵工卒の土屋茂助氏が推薦により就任されました。太っ腹の人物で力強い発足でした。

学校修復が議題

物のない不自由な時代であったけれども、委員の人達は一度廃校した蔵前高小の校舎を蔵前工業が使用するために、修復費用寄付を募りたいと集まりました。(教諭 石原 正)



柳北小学校での同窓会定期総会のお知らせ、他

昭和20年4月1日
柳北国民学校校内授業開始
昭和21年3月31日
伏見三郎本校長に就任
昭和21年9月13日
旧蔵前国民学校校舎転用許可
昭和21年11月29日
転用校舎の修復工事着工
昭和22年5月1日
校舎修復完了 授業開始
昭和23年4月1日
東京都蔵前工業新制高等学校改称
昭和24年3月31日
蔵前工業学校および併設中学校廃止
昭和25年1月28日
東京都立蔵前工業高等学校変更
昭和26年6月23日
実習工場修築落成

校旗をつなげ

戦災にあつてすべてを失った蔵工は校旗も失ってしまったが、昭和25年3月卒業の若い人達が水越君を中心に、後輩の為に校旗を作成しようとして色々尽力してくれて昭和27年に校旗と標旗が出来た。現在の校旗がそれである。(体育科教諭 菊池 章)



施設拡充へ同窓会も支援

国民皆泳の情熱が館山寮建設へ



第1期校舎落成

- 昭和29年12月16日 第1期校舎落成・創立30周年記念
- 昭和30年9月17日 第2期校舎落成
- 昭和31年6月20日 第3期校舎落成
- 昭和32年5月10日 設備工業科実習工場ブロック建築落成
- 昭和33年4月1日 電気実習工場木造平屋建築落成
- 昭和34年7月28日 第4期校舎増築落成
- 昭和35年1月14日 講堂兼体育館落成
- 昭和36年3月31日 実習工場増築3階330㎡
- 昭和38年7月10日 館山寮落成
- 昭和39年11月5日 創立40周年記念式典挙行
- 昭和49年11月3日 創立50周年記念式典挙行
- 昭和55年4月21日 8階建校舎第1期工事完成
- 昭和56年9月10日 8階建校舎第2期工事完成
- 昭和58年3月31日 8階建校舎第3期工事完成



館山寮落成

臨海寮を作ろうということになり、幸いに土地も見つかり急いで着工しました。これには、池田同窓会会長の暖かい理解と協力、当時のPTA会長の並々ならぬお骨折りがありました。

館山寮は昭和38年7月に建設され、昭和41年1月に法人化し、平成8年7月の臨海訓練を最後に終止符が打たれました。



8階建校舎工事完成

8階建校舎一期工事完成後の新校舎で行われた同窓会で、機械科の赤羽先生をはじめ、同窓生、教職員の協力も得て「蔵工の歴史を語る資料」の提供を呼びかけました。

その後、改築記念事業委員会で、改築記念事業の一つとして「蔵工記念館」の設置が決まりました。(司書 尚山 寿子)



蔵工記念館の開設

蔵工の歴史を一堂に集める



周年記念祝賀会を主催



体育館・講堂の綴帳を寄贈



各科応援旗を寄贈

活発化する蔵工との交流

記念館を交流の場に改装 歴史をつなぐ同窓会

活力的な同窓会活動をテーマに、学校およびPTAとの交流を積極的に推進しました。特に蔵工祭には『なんでも相談コーナー』を設け生徒・保護者・OB・OG・先生・入学希望者等との交流も致し、学校へのささやかな支援が出来たと思えます。

周年記念式典を通して、改めて同窓会の絆を示しました。

記念事業の一環として、多くの方からの同窓会基金寄附金や祝賀会祝金を活用して講堂綴帳・優勝カップ・テント・各科応援旗を新調できたことは、次世代へのエールとなりました。



リニューアル後の蔵工記念館



蔵工祭で、なんでも相談コーナー

- 昭和59年11月24日 創立60周年記念式典挙行
- 平成6年11月19日 創立70周年記念式典挙行
- 平成11年12月8日 文部省研究指定校
- 平成12年7月19日 海外修学旅行協行校
- 平成13年5月1日 文部科学省研究開発学校指定校
- 平成14年11月13日 2号館改修工事完成
- 平成15年1月23日 浅草中学校連携型中高一貫教育校
- 平成16年10月9日 創立80周年記念式典挙行
- 平成17年4月1日 芝浦工業大学・東京電機大学・東京理科大学との高大連携型教育が実施される
- 平成19年4月1日 日本工業大学との高大連携型教育が実施される
- 平成21年10月30日 蔵工記念館リニューアル
- 平成26年10月18日 創立90周年記念式典挙行